

東京電機大学高等学校卒業式式辞

みなさん、卒業おめでとうございます。また、みなさんのご両親、ご家族、ご親族、そして関わりの深い方々にも、ご来賓、教職員一同とともにお祝いを申し上げたいと思います。

今、みなさんはどのような思いでこの場におられるのでしょうか。第一志望校に見事合格し、四月からの新しい出会いに期待を膨らませている人もいるでしょう。残念ながら不本意な結果に終わって、鬱屈した思いでこの場に座っている人もいるかもしれません。しかし、人生という長いスパンで考えれば、大学入試の結果があなたの人生にとってどんな意味を持つことになるのか、それはまだ分からないのです。「禍福は糾える縄の如し」と言います。良いことばかり続くことはあり得ないし、悪いことばかりという人生もありません。要は、与えられた状況の中で、どう最善を尽くしていくかなのだと思います。そういう生き方をしている人は、自らの生涯を振り返って「良い人生だった」と述懐できるのではないのでしょうか。みなさんの人生という旅路はまだまだ先が長いのです。

最近、人生 100 年という言葉を目にする機会が多くなりました。2007 年生まれの日本の子供たちの二人に一人が 107 歳まで生きるという予測もあります。卒業生のみなさんの中にも、きっと 100 歳以上の人生を過ごす方がいるはずですよ。18 歳のみなさんが仮にあと 80 年生きるとして、今世紀末の世界はどうなっているのか。変化が激しく予測困難なこれからの時代ですが、寿命が延びれば、その分だけ人生という時間が増えるのだけは確かです。今の感覚で 70 歳は第一線を退いたリタイア世代でしょうが、人生 100 年時代においてははまだバリバリの現役世代かもしれません。

仕事を通じて社会参加する期間が長くなれば、二十代に学んだことだけでは、目まぐるしいスピードで進歩する知識基盤社会を生き抜くことはできません。常に最新の知識、技能にアップデートする必要があります。つまり、これからは生涯学び続け、成長し続けようとする知的好奇心と柔軟性が求められるのです。みなさんは今、生涯に亘って続く学びの旅路の門口に立っているといたってもよいかもしれません。

人生 100 年時代を生きるもう一つの視点は、人とのつながり方です。一人の人間が生きている間にいったい何人の人々と関わることになるのでしょうか。人と人の結びつきは一緒に生活する家族や毎日のように顔を合わす友人、同僚といった密接な関係性にある人々ばかりではありません。生涯に一度しか会ったり話したりしたことがない人であっても、あなたにとって忘れることのできない、大きな影響を与えてくれる出会いもあります。豊かな人生、幸福な生涯にとって大切なのは、むしろそうした小さな出会い、つながりなのかもしれません。

アメリカのマーク・グラノヴェッターという社会学者は、発想の転換や思いもしなかつ

た新しいアイデアは、往々にして、ふだんの自分とは遠い関係にある人々との交流の中から得られることが多いと論じています。これを「ウィーク・タイズ (weak ties 弱いつながり) 理論」といいます。もちろん家族や学校、会社などの組織・共同体との強いつながりも必要です。しかし、いつもつながっているわけではないが、必要なときにつながることができる、ゆるく、しなやかな関係をたくさん持っていることは、みなさんがこれからの人生で直面するさまざまな局面を乗り越えていくときに、きっと助けとなると思います。

例えば、時代の先端をいく GAF A やベンチャー企業は、自社製品の部品のすべてを自前では持ってはいません。持っているのは製品の心臓部の情報、すなわちアイデアとデザインだけです。あとは世界各地に広がるネットワーク (弱いつながり) を通じて調達した部品を、必要に応じて組み合わせるだけです。そのほうが消費者の志向の変化や市場の動向に素早く対応できるからです。それが予測不可能な時代を生き抜くための知恵なのでしょう。企業だけではなく、個人の生き方においても、こうした視点を持つておくことがこれからは大切です。

弱いつながりを多方面に持つためには、とにかくいろいろな人と積極的に会って話をし、自分を知ってもらいしかありません。知らない人との出会いは日々の生活のちょっとした場面にあります。あとは、その出会いを意識できるかどうかです。みなさんには、これからの長い人生において、そうした弱いつながりの種をできるだけ蒔いておくことをお勧めしておきます。

もう一つ大切なことは、弱いつながりはあなた自身を助けることがあると同時に、今は知らない誰かを助けることになるかもしれない、ということです。こんな話があります。ある人が山で遭難したが、ふもとに明かりが一つ見えたので、それを頼りに下山して助かった。その明かりは遭難者を助けるために灯されたものではない。しかし、自分の生活のために灯した明かりが、結果的に人を救うことになった。人はみな自分のために一生懸命生きている。しかし自分の意図と関係ないところで、他の人の役に立っているのです。弱いつながりも同じことだと思えます。

一人一人の人間はパスカルの言うとおりの弱い存在です。しかし、人は目に見えない弱いつながりを通じて、多くの今は知らない人々と結びついている。そして奇跡のような出会いがあつて、お互いを支え合つて生きている。私はそう信じたいと思います。

みなさんのこれからの人生は素晴らしいものであると同時に、厳しいことにも直面するに違いありません。嬉しいとき楽しいときもあれば、悲しいとき苦しいときもあるだろうし、右に進むべきか左に進むべきか判断に迷うときもあるでしょう。そんなときは、いつでも母校を訪ねてください。みなさんの母校は、みなさんのことをきつと温かく包み込むように迎えてくれるはずですよ。東京電機大学高等学校は、そのような学校でありたいと考えています。

それでは、卒業生のみなさんの前途が輝かしいものになることを心から祈念して、式辞とさせていただきます。ご卒業おめでとう。

平成三十一年三月九日

東京電機大学高等学校
校長 大久保 靖

参考文献

リンダ・グラットン アンドリュー・スコット『ライフ・シフト』（東洋経済新報社 2016年刊）

マーク・グラノヴェッター『転職 ネットワークとキャリアの研究』（ミネルヴァ書房 1998年刊）

宇野重規『未来をはじめる 「人と一緒にいること」の政治学』（東大出版会 2018年刊）

沼上幹『小倉昌男 成長と進化を続けた論理的ストラテジスト』（PHP研究所 2018年刊）